

令和5年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No	17	政策名	就学前児童ケアサービスを総合的に推進する
所管部	子ども家庭支援部	関係部	みなと保健所 教育委員会事務局教育推進部 教育委員会事務局学校教育部

2 政策のめざす方向性

保育施設の充実や保育の質の向上を図り、区民の誰もが安心して子どもを生み、育てることができる様々なニーズに対応した保育環境を整備します。多様な働き方に合わせた保育時間や、医療的ケアが必要な児童等の保育、病児・病後児保育など都心型の保育サービスを充実し、子育てと就労の両立を支援します。在宅子育て家庭への支援サービスの充実、保護者の子育て力向上の支援、幼稚園における教育環境の充実など、就学前児童のケアサービスを総合的に推進します。

SDGsとの関係				
----------	---	---	---	---

3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
30.8%	37.1%	33.3%	37.0%	A	

これまでの取組と成果
保育定員の適切な管理に取り組み、平成31年4月から令和5年4月まで、5年連続で待機児童ゼロを継続しました。また、在宅子育て中の保護者に対する支援サービスの充実に積極的に取り組みました。

課題と今後の方向性
※未達成の場合は原因分析を含む
令和5年2月に策定した「みんなと子どもすくすくアクション～港区の就学前の子どもを取り巻く環境変化等を踏まえた子育て支援策～」に基づき就学前の子どもがいる世帯に対する子育て支援の早期の充実を図ります。

4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	保育園待機児童ゼロの継続	待機児童数（各年度4月1日現在）	A
②	保育園における保育の質の向上	指導検査・訪問指導において文書指摘を受けた私立認可保育園等の割合	A
③	子育て支援サービスの充実	子育て支援サービスの満足度	A
④	小学校入学前教育の充実	子ども一人ひとりの個性を生かした教育環境が整っているかという問いに肯定的に回答する区立幼稚園保護者の割合	A
⑤			
⑥			

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	23,258,822	23,783,721	25,599,366
流用・補正	-145,553	316,180	-
決算額	22,653,576	23,538,320	-
執行率	98.01%	97.67%	-

6 政策を取り巻く社会経済情勢等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など 	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受けている社会情勢において、港区の就学前児童人口は、令和2年2月以降減少傾向にあります。</p>
<p>区民ニーズ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見など 	<p>就学前児童に対する子育て支援検討に当たってのアンケート調査では、「保育の質」に関する課題が顕在化しています。また、在宅子育て家庭の悩みについては、「子育ての孤独感」「子育ての相談先」など、在宅子育て家庭特有の悩みを抱えているという回答が、アンケート調査結果において一定数見られました。</p>

7 所管課による評価【一次評価】

<p>政策の達成状況</p>	<p>政策全体として目標値に到達するなど、政策目的を達成できています。</p>
<p>達成状況の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の有効性が高かった点 ・施策の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など 	<p>施策「保育園待機児童ゼロの継続」について適切な保育定員の管理に取り組むことで、平成31年4月から令和5年4月まで、待機児童数ゼロを達成しました。</p> <p>施策「子育て支援サービスの充実」の取組について、ICT化の推進、産前産後家事・育児支援事業の拡充及びベビーシッター利用支援事業を新規開始するなど、子育て支援サービスの充実に努めたことで、成果を得られました。</p>
<p>課題と今後の方向性</p>	<p>令和4年1月に区内在住の就学前の子どもがいる全世帯を対象に「就学前児童に対する子育て支援検討に当たってのアンケート調査」を実施しました。調査結果を踏まえ、新たに把握した課題やニーズに対応する子育て支援策をまとめた「みんなと子どもすくすくアクション～港区の就学前の子どもを取り巻く環境変化等を踏まえた子育て支援策～」を令和5年2月に策定しました。今後は本アクションに基づき就学前の子どもがいる世帯に対する子育て支援の早期の充実に図ります。</p>


8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

<p>評価※</p>	<p>A：政策目的を十分に達成できる。</p>
<p>政策の達成度</p>	<p>・待機児童ゼロの継続や、児童相談所設置市となったことを背景に、保育施設の運営内容及び保育の質の向上に積極的に取り組んでいることは評価できます。</p>
<p>今後の政策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点的に取り組むべき施策など 	<p>・子育て支援サービスのICT化については、申請手続のICT化に加えて、支援サービスそのもののICT化を検討する必要があります。</p> <p>・子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、子ども家庭支援部と教育委員会事務局が連携し、保育及び幼稚園の教育の質の向上、保育士や幼稚園教諭のレベルアップなどに一層取り組む必要があります。</p>

※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外

施策評価シート

政策No	17	政策名	就学前児童ケアサービスを総合的に推進する		
施策No	1	施策名	保育園待機児童ゼロの継続		
目標・期待する成果	今後の人口動向や社会経済情勢の変化が保育需要に及ぼす影響を十分に踏まえた上で、教育・保育を提供するための施設等の充実を図り、待機児童ゼロの継続をめざします。				
SDGsのゴールとの関係					
施策担当課	子ども政策課			関係課	子ども家庭支援センター 保育課
担当者名	松見	内線	2846		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
待機児童数（各年度4月1日現在）	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	当初計画どおり、令和3年4月に私立認可保育園3園を開設し、待機児童ゼロを継続しました。		待機児童が解消された一方で、地域や保育施設の種別によっては、保育施設の定員に対して多くの空きが生じています。今後は保育需要の動向を踏まえた施策を展開していく必要があります。		
令和4年度	a	当初計画どおり、令和4年4月に私立認可保育園を1園、8月に1園開設し、待機児童ゼロを継続しました。		令和3年度と同様、保育施設の定員に対して多くの空きが生じていることに加え、就学前児童人口が減少傾向にあります。引き続き、保育需要の動向を注視しながら、保育定員の適切な管理に取り組みます。		
令和5年度	a	令和5年4月に私立認可保育園を1園開設し、待機児童ゼロを継続しました。		-		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
 c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	・保育定員の適切な管理に取り組み、平成31年4月から令和5年4月まで、5年連続で待機児童ゼロを継続することができました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	・私立認可保育園等の空き状況や保育需要の動向を踏まえつつ、適切な保育定員の管理に取り組み、平成31年4月から令和5年4月まで、成果指標である「待機児童数」のゼロを達成しています。
課題と今後の方向性	・平成31年度以降、4月時点での待機児童ゼロを継続している一方で、区内就学前児童人口の減少等に伴う保育需要の減少により、区内保育施設の定員に空きが生じている状況です。 ・4月時点での待機児童ゼロを継続するとともに、区内保育施設の定員に空きが生じている状況や保育需要の動向を注視しながら、引き続き保育定員の適切な管理に取り組みます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。

B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	17	政策名	就学前児童ケアサービスを総合的に推進する		
施策No	2	施策名	保育園における保育の質の向上		
目標・期待する成果	子どもの健やかな成長のためには、保育の内容の充実や保育の質の向上が不可欠です。区では、保育施設の運営内容の向上と改善を図るため、保育士の業務負担の軽減や保育士等の専門性を高め資質を向上する研修、施設の指導・監督の強化や関係機関との綿密な連携などにより、保育の質の向上に向けた取組を推進します。				
SDGsのゴールとの関係					
施策担当課	子ども政策課		関係課	教育指導担当 保育課	
担当者名	2852	内線	田中		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
指導検査・訪問指導において文書指摘を受けた私立認可保育園等の割合	26%	38%	37.5%	35%	44%	38%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	令和3年度から児童相談所設置市として区に指導監督権限が移管され、運営・保育・会計各分野の主体的な検査が可能となりました。会計分野の検査支援を公認会計士に委託する等指導監督の強化が図れた一方、会計分野の指摘が増え文書指摘を受けた保育園等の割合は12%上がりました。		指導事項における重点項目の整理、事前提出書類の整理等が課題となります。また、指摘が増えた会計分野については、令和4年度から公認会計士が専門的見地からの助言や改善指導を継続的に行うこととし、各施設の適正な運営の確保を図ります。		
令和4年度	a	令和3年度同様、運営・保育・会計各分野の検査を実施し、会計分野の検査支援を公認会計士に委託する等指導監督の強化を図りました。令和3年度より0.5%減少しました。		引き続き指導事項における重点項目の整理、事前提出書類の整理等が課題となります。また指摘の多かった事項（内容）について集団指導等で共有し、改善と各施設の適正な運営に向けて助言と指導を継続的に行います。		
令和5年度	a	令和4年度同様、運営・保育・会計各分野の検査を実施していきます。集団指導において前年度に多かった指摘事項ならびに今年度の重点事項について指導したうえで実施します。		/		

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	・令和3年度から、児童相談所設置市となり指導検査が区の権限となりました。日頃の訪問指導の強化の成果もあり、目標値の達成に繋がりました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	・令和2年度の数値より、令和3年度の数値が上がってしまっているのは指導検査に入る件数が格段に増えたためですが、令和3年、令和4年については指摘事項の改善点を保育施設に伝達する等集団指導を検査前に行った効果が得られました。
課題と今後の方向性	・公認会計士による会計分野の指導検査も加わり、よりきめ細かな保育施設の運営に関する事項の検査ができるようになった事で、事業者側の会計面に関する留意事項や考え方が少しずつ定着してきている状況があります。引き続き、当年度に指摘が多かった事項については各保育施設へ情報共有をしたり、訪問指導で助言するなどし、目標値を達成できるよう取り組みます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。

B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	17	政策名	就学前児童ケアサービスを総合的に推進する		
施策No	3	施策名	子育て支援サービスの充実		
目標・期待する成果	在宅子育て中の保護者に対する支援サービスが充実し、育児不安が解消され、子育てしやすい環境の整備を推進します。				
SDGsのゴールとの関係					
施策担当課	子ども家庭支援センター		関係課	健康推進課	
担当者名	福田	内線	3951		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
子育て支援サービスの満足度	75%	85%	85%	85%	77%	80%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	ICTを活用し、施設のキャッシュレス化を進めました。また、新型コロナウイルスワクチン接種時の一時預かり事業を実施するなど、子育て支援サービスの充実に努めたことで、高い評価を得ることができています。		コロナ禍においても、継続して事業が実施できるよう、感染予防に努めていきます。また、社会状況や利用者の声を踏まえ、引き続き子育て支援サービスの充実に努めていきます。		
令和4年度	a	あっぴい港南四丁目において、乳幼児一時預かり事業を開始するとともに、産前産後家事・育児支援事業の対象を2歳児までに拡充するなど、子育て支援サービスの充実に努めました。その結果目標値に到達する成果を得られました。		引き続き、子育て家庭の子育ての孤独感や負担感を解消するために必要な支援の拡充に努めていきます。		
令和5年度	a	新たにベビーシッター利用支援事業を開始し、保護者の多様な保育ニーズに応えるとともに、経済的な負担を軽減するなど、子育て支援サービスの充実に努めます。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅子育て中の保護者に対する支援サービスの充実に積極的に取り組み、目標に掲げる満足度が達成されました。 ・施策の評価は、成果指標①が計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「子育て支援サービスの満足度」について、ICT化の推進、産前産後家事・育児支援事業の拡充、及びベビーシッター利用支援事業を新規開始するなど、子育て支援サービスの充実に努めたことで、目標値に到達する成果を得られました。
課題と今後の方向性	子育て家庭を取り巻く環境変化を踏まえ、引き続き、在宅子育て中の保護者の育児不安を解消するための施策の充実に取り組みます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	17	政策名	就学前児童ケアサービスを総合的に推進する		
施策No	4	施策名	小学校入学前教育の充実		
目標・期待する成果	幼稚園は、集団生活をとおして、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、幼児期の心身の発達に必要な経験をする場です。幼児期の育ちと学びが、小学校以降の自ら学び、考え、行動する「徳」「知」「体」の学びにつながるよう、小学校入学前教育の充実を図ります。				
SDGsのゴールとの関係	   				
施策担当課	学務課		関係課	教育長室 教育指導担当	
担当者名	中村	内線	4721		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
子ども一人ひとりの個性を生かした教育環境が整っているかという問いに肯定的に回答する区立幼稚園保護者の割合	-	97.5%	98.0%	98.5%	82%	86%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	需要に応じた幼稚園の受入れ体制を確保するとともに、研修等による教員の指導力の向上を図った結果、保護者からは区立幼稚園運営に対し、高い評価を得ることができています。		年少人口や幼稚園希望率の減少により、幼稚園の応募者数が減少しています。需要に応じた受入れ体制及び幼稚園希望者数の向上策について、公私立幼稚園が連携して検討していきます。		
令和4年度	a	空き定員の増加等を踏まえ、区立幼稚園の募集定員を削減する一方、区立幼稚園の利便性や魅力の向上、情報発信強化に取り組みました。区立幼稚園の運営に対しては、引き続き、保護者から高い評価を得ることができています。		在園者数の減少が続いていることから、引き続き需要に応じた受入れ体制及び幼稚園の魅力向上策等について、公私立幼稚園が連携して検討していきます。		
令和5年度	a	区立幼稚園の令和5年度3歳児入園者が微増となるなど、魅力等向上策の一定の成果が見られます。引き続き、公私立幼稚園で協議しながら、各幼稚園の教育内容の充実や利便性の向上を検討します。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公私立幼稚園で協議の上、適正な受入れ体制を確保するとともに、教育内容の充実や利便性の向上に取り組むことで、在園児の保護者からも高い評価を得ることができました。 ・施策の評価は、成果指標の計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・年少人口や幼稚園希望率の減少により、公私立幼稚園共に園児数が減少しました。 ・預かり保育の時間延長や自転車登園への対応、モデル園での英語活動の実施等、区立幼稚園の魅力向上に取り組むことで、減少が続いていた3歳児4月入園者が令和5年度において微増となるなど、一定の成果を得られました。
課題と今後の方向性	<p>幼稚園運営に対し、在園児保護者からは高い評価を得ているものの、園児数が減少していることから、各幼稚園の魅力発信の強化と、預かり保育の充実等、より多くの家庭が利用しやすい環境整備に取り組みます。 また、公私立幼稚園が連携して、需要に応じた受入れ体制の確保に取り組みます。</p>

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。

B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。